

三重県スペイン経済交流ミッションの主な内容

11月6日(水)

(1) 国連世界観光機関 (UNWTO) 訪問

国連の観光機関である UNWTO では、持続可能な観光振興に関する様々な活動を行っており、「UNWTO ガストロノミーツーリズム世界フォーラム」を主催するなど、ガストロノミーツーリズムの振興にも取り組んでいます(※1)。同フォーラムについては、観光庁が奈良県を国内開催地として選定し、観光庁と奈良県は、令和4年の開催にかかる日本への誘致活動を共同で行っています。また、三重県と奈良県は、食の人材育成に関し、今後連携することとしています(※2)。

このことから、UNWTO が提唱する持続可能な観光振興などについて意見交換を行うとともに、近年関心が高まっているガストロノミーツーリズムについて世界的なネットワークを持つ UNWTO に対し、県内における食の交流の促進に関する協力要請を行います。

(※1) ガストロノミーツーリズム、UNWTO ガストロノミーツーリズム世界フォーラム：

(ガストロノミーツーリズム)

その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによってはぐくまれた食を楽しむ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズム

(UNWTO ガストロノミーツーリズム世界フォーラム)

ガストロノミーツーリズムを推進するため、バスク自治州にある調理専門学校「バスク・クリナリー・センター」との共催により毎年開催されている。

(※2) 三重県と奈良県の連携：

三重県では、今回の知事のスペイン訪問に合わせて、サン・セバスティアン市で料理人交流等に取り組むのに対し、奈良県では、県立「なら食と農の魅力創造国際大学校」と「バスク・クリナリー・センター」が協定を締結に向けて協議を進めている。食の人材育成に関して両県は、たとえば、バスクの料理人が来日した際には両県の料理人との交流機会を設けるなど、それぞれが持つスペインとのネットワークを生かした連携を図ることとしている。

(2) スペイン・スポーツ庁及びスペイン・トライアスロン連盟訪問

スペインのトライアスロン代表チームの東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地が志摩市に決まったことから、その御礼と今後の意見交換のため訪問します。

11月7日（木）

(3) バスク自治州首相との面談

産業、食、巡礼道の3つの分野でのバスク自治州との交流について、具体的な協力事項に関する意見交換を行います。

(4) 「バスク自治州と三重県の世界遺産の巡礼道を生かした協力・連携に関する覚書」締結式及び現地巡礼道の視察

バスク自治州を通る世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」(※)と「紀伊山地の霊場と参詣道」(熊野古道伊勢路)の交流を図るため、覚書を締結します。また、現地の巡礼道を視察します。

(※)「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」:

「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」は、キリスト教の3大聖地の1つであるスペイン北西部ガリシア州サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼道で、スペイン国内の「フランスの道」「アラゴンの道」が、1993年、世界文化遺産に登録された。バスク自治州内には、「フランスの道」に次ぐ人気ルートで海（ビスケー湾）を臨む「北の道」と、のどかな田舎道や峠道などを通る「内陸の道」が通っており、2015年の拡張登録により、両ルートも世界文化遺産の一部として登録された。

(5) 料理人交流事業視察（昼食会）

「世界一の美食の街」(※)と称されるサン・セバスティアン市の料理人と、県内料理人及び料理人を目指す若者による交流の場を視察するとともに、料理人らが共に作り上げた料理を試食します。

(※) サン・セバスティアン市中心部から半径25km以内に「ミシュランガイド」星付きレストランが18軒あり、人口一人あたりの軒数が世界一であることから、「世界一の美食の街」と称されている。

(6) サン・セバスティアン市長との面談

多気町との間で「美食を通じた友好の証」を締結しているサン・セバスティアン市の市長を訪問し、食の交流等にかかる意見交換を行います。

(7) 三重・バスク食産業交流会

県内の食関連事業者が現地バイヤー等に対するデモンストレーションや商談を行う交流会(※)において、三重の食の魅力を紹介するプレゼンテーションを行います。

(※) 日本貿易振興機構（ジェトロ）三重貿易情報センターと三重県の主催により、サン・セバスティアン市内にて実施。県内の食関連事業者 9 社の参加のもと、上記の交流会のほか、現地の市場視察や輸入商社へのセールス等も行う。

(8) バスク自治州主催夕食会

バスク自治州主催の夕食会に出席します。

11月8日（金）

(9) モンドラゴン協同組合グループへのトップセールス

バスク自治州のモンドラゴン協同組合グループ（※）を訪問し、県内への投資誘致と商取引の拡大を目的としたトップセールスを行います。

(※) モンドラゴン協同組合グループ：

海外約 30 か国に工場を展開するなど海外志向が高い工業部門を持つ、労働者協同組合と企業の連合組織。年間総収入 1 兆 5 千億円、年間投資額 570 億円（製造業以外も含む）。

(10) 自動車インテリジェンスセンター（AIC）及びゲスタンプ社研究開発センター視察

バスク自治州の自動車産業の実態を視察するため、「バスク自動車産業クラスター（ACICAE）」（※）がオープンイノベーションを促進するために設立した「自動車インテリジェンスセンター（AIC）」と、同センターにあるゲスタンプ社の研究開発センターを訪問します。

(※) バスク自動車産業クラスター（ACICAE）：

ゲスタンプ社を含む 300 社が加盟する、欧州最大の自動車部品産業のクラスター

(11) ビルバオ・グッゲンハイム美術館視察

重工業が衰退し不況に陥っていたビルバオ市が、グッゲンハイム美術館（本部：ニューヨーク）を誘致するなどにより、重工業都市から文化芸術都市へと再生を遂げた「クリエイティブ・シティ」（※）の取組事例を視察します。

(※) 「クリエイティブ・シティ」:

文化芸術と産業経済との創造性に富んだ都市を指す概念。この概念は、産業空洞化と地域の荒廃が課題となっていた欧米において、行政、芸術家、文化団体、企業、大学、住民などの連携のもと 1980 年代から始まった都市再生の試みを経て発展した。2004 年には、国連教育科学文化機構 (UNESCO) が、「クリエイティブ・シティーズ・ネットワーク」を立ち上げ、ビルバオ市は、デザイン部門で「クリエイティブ・シティ」として認定されている。

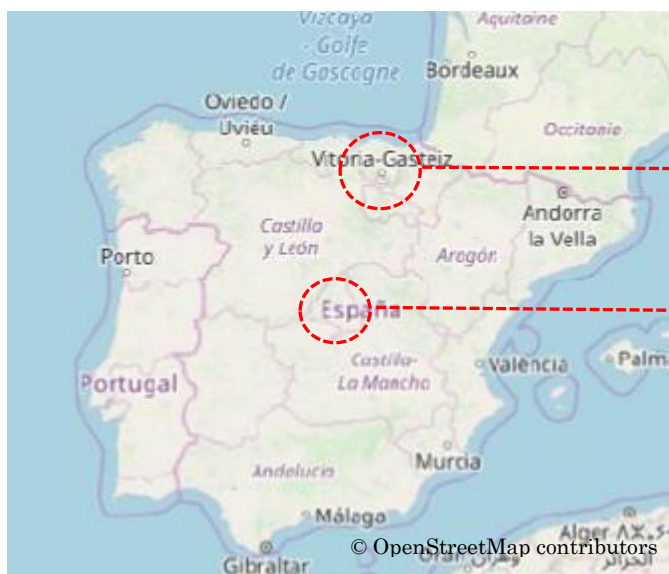
(12) ITP アエロ社訪問

ロールスロイス社の子会社で、エアバスに航空機用エンジンを供給している ITP アエロ社を訪問し、本県の航空宇宙産業との連携についてトップセールスを行います。

(参考 1) バスク自治州について

人 口	約 218 万人
面 積	7,234 km ² (三重県の約 1.25 倍)
公用語	スペイン語、バスク語
県	州内にアラバ県、ビスカヤ県、ギプスコア県の 3 県がある (各県内にはさらに、郡と基礎自治体 (市町村に相当) がある)
主要都市	ビトリア市 (バスク自治州の州都及びアラバ県の県都、人口約 24.9 万人) ビルバオ市 (ビスカヤ県の県都、人口約 34.5 万人) サン・セバスティアン市 (ギプスコア県の県都、人口約 18.6 万人)
主要産業	エネルギー、自動車、環境、電子・ICT、鉄道、航空宇宙など

(参考 2) 位置



バスク自治州
(11月7日、8日訪問先)

マドリード
(11月6日訪問先)